

千葉大学医学部附属病院で 門脈圧亢進症合併妊娠と診断され、当院で分娩された 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年11月30日

産科・婦人科

産科・婦人科では、門脈圧亢進症合併妊娠に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2004年1月1日～2025年8月31日の間に門脈圧亢進症合併妊娠と診断され、産科・婦人科で分娩された方

1. 研究課題名

「Clinical Course of Ten Pregnancies in Seven Women with Portal Hypertension
(門脈圧亢進症合併妊娠7症例10妊娠の臨床経過)」

2. 研究期間

2025年承認日～2030年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

門脈圧亢進症とは、胃や腸などの消化管から肝臓へ血液を送る「門脈」という血管の血圧が上昇した状態です。原因となる病気は、肝硬変や門脈血栓症、先天性胆道閉鎖症（術後）などがあります。門脈圧亢進症では、食道・胃の静脈の膨隆（静脈瘤）や、脾臓の腫大（脾腫）などさまざまな合併症を引き起こします。

もともと門脈圧亢進症を指摘されている方が妊娠した場合、あるいは妊娠中に門脈圧亢進症を指摘された場合、妊娠中に食道・胃静脈瘤が破裂し大量出血を起こすことがあり、

妊娠中は慎重な管理が必要です。しかし、現時点では門脈圧亢進症の妊娠管理に関するガイドラインはありません。今後より安全な妊娠分娩管理を行うために、これまで当院で妊娠・分娩管理を行った患者さんの診療情報をもとに適切な妊娠管理や分娩時期の検討をしたいと考えています。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録（カルテ）に記載されている年齢、既往歴、合併症、血液検査値、内視鏡検査結果、妊娠回数、分娩回数、分娩週数、分娩様式、分娩転帰、新生児経過等

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：産科・婦人科 教授 甲賀かをり

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院産科・婦人科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

産科・婦人科 医員 關公美子

043（222）7171 内線71253